

## 『F波から分かる運動観察の臨床応用について』

医療法人社団石鎚会 田辺中央病院 高崎浩壽

運動観察とは、他者がおこなう運動を視覚的に捉えることであり、近年リハビリテーションへの応用が注目されています。健常者における先行研究では、実際に運動をおこなう以外に、同様の運動を観察するのみでも、運動実行に関わる脳領域の活動が増大すると報告があります。さらに、脳血管疾患患者では、他者の動作を観察することで障害された部位の脳機能が賦活されるのではないかと期待を集めています。しかし、セラピストとして脳血管疾患患者の動作改善を考えるのであれば、動作を遂行するための骨格筋を支配している脊髄神経機能に変化が生じるか理解を深めることが重要になります。つまり、脊髄神経機能との関係性を十分に把握することが運動観察の臨床応用を可能にします。

そこで、脊髄神経機能の興奮性指標でもあるF波を用いて運動観察についての基礎研究をいくつか紹介します。さらに、実際に運動観察をリハビリテーションへ応用したことで動作に改善が得られた症例について、解説を踏まえて提示したいとも考えています。本セミナーを通して、少しでも運動観察に秘められた「可能性」についてご理解いただければ幸いです。

当日はみなさんと有意義な時間を共有したいと願っていますので、どうぞよろしくお願い致します。